

父の思いを継いで

没後65年を経て『原鼎画集』を出版

原鼎といっても知
っている人の方が少
なくなつた。飯田病
院創業者原耕太郎の
長男で、父の意に背
き、医者になること
を拒み、「国民新聞」
記者から画家に転
じ、また第二次世界
大戦の戦中戦後は養
蜂家でもあつた。戦
後昭和27年12月6日
自死した異色の洋画
家である。

上肇の地下潜伏を手
引きしたり、実現は
しなかつたが戦時中
は河上博士の飯田疎
開を計画したりした
〔信州移住の夢〕
他。中野重治、室生
犀星、大塚有章や山
田阿水、矢高行路、
竹村浪の人、今村泰
蔵、下島正夫らとも
知己で、それぞれ鼎
について書いた文章
がある。洋画家千金
貫事も鼎を頼つて疎
開した。

て、リベラルな文化
人や洋画界に大きな
影響を与え、そして
54歳の若さで逝つた
のだった。
その甥にあたる原
正さん(68)が、散
逸した鼎の作品や資
料を15年かけてコッ
コツ集め、鼎没後65
年にして作品集『原
鼎画集』を出版した。
画集は、代表作
「廃兵と花売り娘」
他、洋画32点、日本
画6点他、デッサン
や年譜、資料で構成
されている。この出
版について、原さん

は「伯父原鼎がいつ
から画家を職業とし
て生きようとしたか
は定かではありませ
ん。金沢の学生時
代、学生展覧会に葱
畑の油絵を出してい
たこともありませぬ。
国民新聞記者を経
て、35歳頃(日中戦
争以前)から洋画家
を目指し始めたと思
われます。鼎伯父は
画家として天才肌で
はなく、努力して自
分の画風を確立して
いったのでしよう。
東京時代と飯田での
作風は明らかな違い
があります。飯田に
住むようになって生
活のために日本画を
多く描くようになった
ので日本画やデッ
サンも入れて、原鼎
の画集として初めて

まとめることが出来
ました。多くの人に
見てもらえれば幸い
です」と語つた。こ
の出版は、正さんの
父享二さん(鼎の
弟)も計画したが、
果たせぬまま亡くな

つたものだった。
画集は上製布クロ
ス310×270の
変形大判98^冊、定価
3240円。販売は
平安堂及び南信州新
聞社で扱っている。
(嶋)



没後65年、刊行された『原鼎画集』と原正さん